

編集復刻版

子どもの 人権問題

資料集成

戦前編

全10巻

「児童の世紀」

だつたはずの一〇世紀

近代日本の子どもたちは、

戦争と貧困の時代をどのように生き抜き、

また社会はその保護・育成につとめたのか。

養育者のいない子ども、悪環境によって反社会的行動に

追いやられた子ども、犯罪とかかわった子ども、虐待を受けた子ども、

障害をもつ子ども、病弱な子ども、貧困ゆえ学ぶ機会を奪われた子ども、

過酷な労働を強いられた子ども……。

編・解説＝室田保夫
一井仁美
倉持史朗
蜂谷俊隆

A4判／上製／総約三、五〇〇ページ

「子どもの人権」の見地から近代日本社会を生きた子どもたちの様相を明らかにし、
社会が、国が、子どもに何をし、何ができなかつたかを検証するための資料を提供するものである。

不二出版

長崎託児所で遊戯する
子どもたち（1928年）

刊行に
あたって

日本では、明治維新以来、富国強兵、殖産興業といふ國是のもと、急速な近代化の過程で多くの非人間的な状況が生まれた。とりわけ日本人の多くは「貧困」という課題に遭遇し、社会問題あるいは生活問題といった困難に直面することを余儀なくされたのである。その一番影響の及ぶところは社会的弱者としての「子ども」であり、これに対する国家の対策はきわめて不十分であった。こうした状況を背景にして孤児や棄児、非行、犯罪、児童虐待、少年労働、母子家庭、障害を持つ子ども等の問題が生じたのである。そして彼らは往々にして差別と社会的排除の対象ともなった。

この資料集成は、かかる過酷な状況にさらされた子どもに対しいかなる保護や教育、福祉の事業、政策、運動があつたか、その実態を伝えるものである。児童福祉や子どもの歴史に関する資料集はこれまで幾度か刊行されているが、この資料集成は今までに復刻されてこなかつた稀観本、施設・事業の年報や機関紙誌、小冊子、パンフレット等を中心的に、植民地やそれに準じるアジア地域、日本人の移民地まで視野に入れて収載したものであり、従来、その実態もしくは存在自体も全

く知られてこなかつた施設の資料や事業等、今回初めて日の目をみたものが多く含まれている。

多岐にわたる子どもの人権問題に関する多くの資料を蒐集し、それらを「子どもの養護」(第一~三巻)、「子どもの保護教育」(第四~六巻)、「少年保護」(第七巻)、「子ども虐待」(第八巻)、「子どもと健康/障害」(第九巻)、「子どもと貧困/労働」(第一〇巻)と大きく六分野に分け、全一〇巻構成とした。また資料も地方の公立図書館や文庫・資料館のみならず、児童養護施設や児童自立支援施設等の実践現場において永く収蔵されてきた、一般には容易に閲覧できない資料を中心に多数収載した。

この資料集成は一九四五年までを対象としたが、そこには近代日本の子どもたちの実態と戦後につながる公私の多様な対策や実践の試みがあり、いま我々が直面している課題に多くの知恵も窺うことができる。多くの資料を読み解きながら、背景にある子どもの声を聞き、過去を振り返り、混迷する日本や世界の教育や福祉の状況を開拓する未来につながる精神や方策を考えさせていただきたい。

編集委員代表 室田保夫

◎内容見本 (第3巻・子どもの養護Ⅲより カリフォルニア州・一九三九年)

創立二十五周年記念
一九三九年五月廿七日

社團法人 南加小兒園小誌

創立満廿五周年

社團法人 南加小兒園小誌

其沿革及現状

一、創立の由來

南加小兒園の創立は一九一四年二月、時の羅府人道會幹事、楠本六一氏の創設にその端を發したのであつて、今茲に改めて其の由來を語ることにすれば、抑も小兒園の母体とも稱すべき人道會其のものは一九一二年の創立に係り、其の當時の事業としては單に在留同胞間に於ける家庭問題や、人事に關する相談事に應するを以て目的となしたるに係らず、此の間にあつて既に兒童に關する諸問題が續發し來れる有様にて、當事者を憐まし事如何ばかりなりしかを知らざる状態なりしにより、其の結果同胞間に育兒院と托兒所を兼ねたる事業の設立は最早一日も忽ちに附す可からざる緊要事業と成つて來たのである。是が

(1)

小兒園に對する同胞社會の要求は日を追ふて増加し來り、從來の收容兒の外更に七名の兒童を收容せねばならぬ立場になつたが、是迄の場所にては殊の外狹隘を感じて來たので、翌一九一五年十月フラワー街八二二に移轉し、同時に其の組織を改め之を團體組織となし、名稱を羅府小兒園と名づけ、園長に古屋孫次郎、副園長に山崎節、會計に谷越勝太郎、幹事に楠本六一の諸氏を選任しました。斯くて楠本幹事は一般同胞有志の士に訴へて、之れが經營の費用を募集せんとし大に努力する處ありしも、當時の同胞社會は未だ在留日猶淺く經濟的基礎甚だ薄弱なりしを以て後援者を得るに至極困難であったので、出來得る限り獨立自營の策を立てんとして市外イングルウード村に二英加の土地並に家屋を買入れ、一九一六年四月同所に移轉し、福田清太郎氏夫妻自ら入つて内部監督の任に當り、楠本幹事は専ら外部に向つて奔走する事にした。此時更に五名の兒童を收容し闇兒の數は合計十八名となつたのである。然し同所は海岸に接近し、霧深く濕氣多かりし爲め喘息を痼疾に持つ楠本幹事の健康に對し甚だ面白からざる徵候ありし而己ならず、且つ同所は遠く羅府市より隔たり居りし爲め種々の事柄に對し不便が多かつたので、其の翌一九一七年遂に折角の計畫を變更し、羅府市内サンチャーハウス街一一二に移轉する事に成つたのであります。

一、建築敷地購入

サンチャーハウス街に移轉すると同時に幹部の意見として、市内より餘り隔たらざる山の手地方に適當の地所を購ひ、永久の基礎を確立せんものと冀つてゐた。恰も善し現在の場所レッドクリフ街に五ロットの土地賣出が有つたので早速之を購入する事に決定し、小兒園を財團法人として土地を所有する事を官憲に向つて請願し認可された、猶ほ其の時の請願者即ち財產管理人はデナ・ハートレット・シシビアス、ブリチャードの三博士と福田清太郎、楠本六一の五氏であつて。

(2)

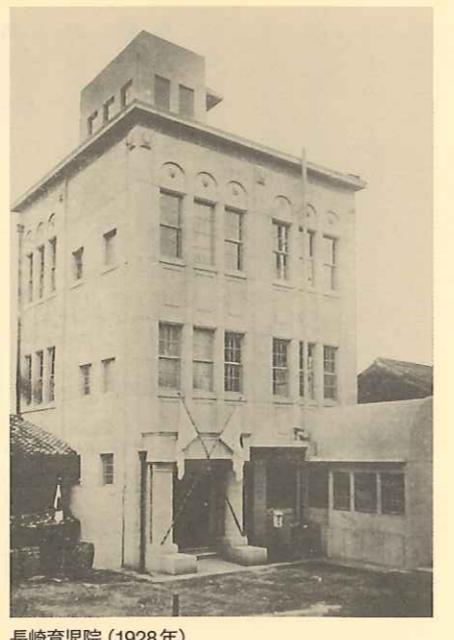
(3)

◎編・解説担当

第1巻~第3巻	「子どもの養護Ⅰ~Ⅲ」	室田保夫・蜂谷俊隆
第4巻~第6巻	「子どもの保護教育Ⅰ~Ⅲ」	二井仁美
第7巻	「少年保護」	二井仁美・倉持史朗
第8巻	「子ども虐待」	室田保夫・二井仁美
第9巻	「子どもと健康/障害」	室田保夫・蜂谷俊隆
第10巻	「子どもと貧困/労働」	室田保夫・倉持史朗



紙箱を製造する子どもたち
(鳥取育児院・1911年)



長崎育児院(1928年)

- 横浜孤児院一覧●〔九〇九〕
- 明治四十五大正元年横浜孤児院報告〔抄〕
- 編・山中兼太郎●〔九二三・九〕
- 北海孤児院(北海道)一八九一年
- 北海孤児院設立趣意書及規則●〔八九〇・三〕
- 上毛孤児院(群馬)一八九一年
- 上毛孤児院設立主意
- 宮内文作・横地源七郎・金子尚雄●〔八九一・六〕
- 上毛孤児院規則
- 広島慈恵学孤児院(広島)一八九五年
- 広島慈恵学孤児院趣意及起因経歴現況并ニ将来ノ施設方針●〔九〇七・四〕
- 大阪汎愛扶植会(大阪・朝鮮)一八九六年
- 大阪汎愛扶植会(大阪)一九〇七年紀念
- 編・自序・清水理四郎・序・窪田静太郎●〔九〇六・五〕
- 大阪汎愛扶植会●編・高見健一・題辞・後藤新平・序・窪田静太郎●〔九〇九・一〇〕
- 財団法人朝鮮扶植農園拾週年記念●編・高見健一・書・斎藤実・清浦奎吾・渋沢栄一・水野鍊太郎●〔九二・四〕
- 財団法人大阪汎愛扶植会の現況・藤本松太郎翁胸像建設記念●編・挨拶・岩本文助●〔九三五・七〕
- 平安養育院(京都)一九〇五年
- 托児月票・慈善財團平安養育院●〔九〇七〕
- 金沢育児院(石川)一九〇五年
- 慈善財團平安養育院一覧●〔九二〕
- 金沢育児院●〔九一七・五〕
- 金沢育児院概況●〔九二六・四〕
- 金沢育児院(秋田)一九〇五年
- 感恩講兒童保育院規則
- 鳥取育児院(鳥取)一九〇六年
- 財團法人鳥取育児院一班●編・尾崎信太郎●〔九二一・六〕
- 編・尾崎信太郎・鳥取育児院●〔九一八・二〕
- 大和育児院(奈良)一九〇六年
- 大和育児院經營一覽表・菅谷音五郎●〔九一〇・一二〕
- 趣意書・大和育児院々則・大和育児院内則・大和育児院服務規定・大和育児院内務細則●〔九一〇〕



- 石見慈育院(島根)一九〇五年
- 石見慈育院一班●編・和田平作・緒言・猪股定重●〔九一〇・八〕
- 鹿児島養育院(鹿児島)一九〇五年
- 財團法人鹿児島養育院記念誌●中村平輔・佐藤隼夫・山下治子ほか●〔九三九・九〕
- 故鹿児島養育院長佐藤茂助君碑●撰・志方之謙●〔九三九・九〕
- 高崎育児院(群馬)一九〇六年
- 高崎育児院月報第五十五号●編・島田鉄玄●〔九三三・三〕
- 高崎育児院年報大正五年度●〔九一七〕
- 救世軍育児婦人ホーム(満州)一九〇六年
- 高崎育児院年報大正五年度●〔九一七〕
- 救世軍育児婦人ホーム概況・昭和八年度事業報告●緒言・張田豊次郎●〔九三四・六〕
- 平安養育院(京都)一九〇五年
- 托児月票・慈善財團平安養育院●〔九〇七〕
- 金沢育児院●〔九一七・五〕
- 金沢育児院概況●〔九二六・四〕
- 金沢育児院(秋田)一九〇五年
- 感恩講兒童保育院規則
- 鳥取育児院(鳥取)一九〇六年
- 財團法人鳥取育児院一班●編・尾崎信太郎●〔九二一・六〕
- 編・尾崎信太郎・鳥取育児院●〔九一八・二〕
- 大和育児院(奈良)一九〇六年
- 大和育児院經營一覽表・菅谷音五郎●〔九一〇・一二〕
- 趣意書・大和育児院々則・大和育児院内則・大和育児院服務規定・大和育児院内務細則●〔九一〇〕

- 上毛孤児院(群馬)一八九一年
- 上毛孤児院設立主意
- 宮内文作・横地源七郎・金子尚雄●〔八九一・六〕
- 上毛孤児院規則
- 広島慈恵学孤児院(広島)一八九五年
- 広島慈恵学孤児院趣意及起因経歴現況并ニ将来ノ施設方針●〔九〇七・四〕
- 大阪汎愛扶植会(大阪・朝鮮)一八九六年
- 大阪汎愛扶植会(大阪)一九〇七年紀念
- 編・自序・清水理四郎・序・窪田静太郎●〔九〇六・五〕
- 大阪汎愛扶植会●編・高見健一・題辞・後藤新平・序・窪田静太郎●〔九〇九・一〇〕
- 財團法人朝鮮扶植農園拾週年記念●編・高見健一・書・斎藤実・清浦奎吾・渋沢栄一・水野鍊太郎●〔九二・四〕
- 財團法人大阪汎愛扶植会の現況・藤本松太郎翁胸像建設記念●編・挨拶・岩本文助●〔九三五・七〕
- 平安養育院(京都)一九〇五年
- 高崎育児院(岐阜)一九〇〇年
- 海南慈善会(香川)一八九九年
- 海南慈善会趣意並会則
- 仏教海南慈善会創立三十週年ニ当リ満腔ノ感謝ヲ払フニ併セテ●〔九一八・一〕
- 広島育児院感化院保護院設立趣意書并ニ規則書
- 清水育児院(岐阜)一九〇〇年
- 広島育児院(北海道)一九〇〇年
- 函館慈恵院●編纂・高岡寅治・序・園田安賢・吉原二郎●〔九〇五・七〕
- 事業要覽●編・久保田権五郎・社団法人函館慈恵院●〔九四〇・九〕
- 三重育児院(三重)一九〇一年
- 三重育児院一般●編・能眞海●〔九〇八・七〕
- 佐賀孤児院(佐賀)一九〇一年
- 佐賀孤児院●〔九〇五・一〇〕

- 鎌倉保育園(神奈川)一八九六年
- 聖愛●編・自序・跋・益富政助・財團法人鎌倉保育園●〔九三・八〕
- 保育の園第十七・鎌倉保育園十三年度報告書
- 編・佐竹首次郎●〔九二五・六〕
- 福井県育児院(福井)一八九八年
- 小樽育成院(北海道)一八九八年
- 財團法人小樽育成院三十年誌
- 編・挨拶・輿水伊代吉・竹谷源太郎●〔九二八・一〕
- 新潟育児院(新潟)一八九九年
- 福井県育児院規則并院児細則●〔八九八・五〕
- 東北育児院(青森)一九〇二年
- 元東北育児院改称弘前愛成園三十年小史●〔九三一・二〕
- 富士育児院(静岡)一九〇三年
- 鶴岡育児所(山形)一九〇四年
- 鶴岡育児所第拾回報告●春山鉄太郎●〔九一四〕
- 富士育児院小観・渡辺義海●〔九〇九・一〇〕
- 岡育児所●〔九三二・一二〕
- 同情園(東京)一九〇五年
- 保育育児同情園々報・坂巻顯三・福多てる●〔九三〇・四〕

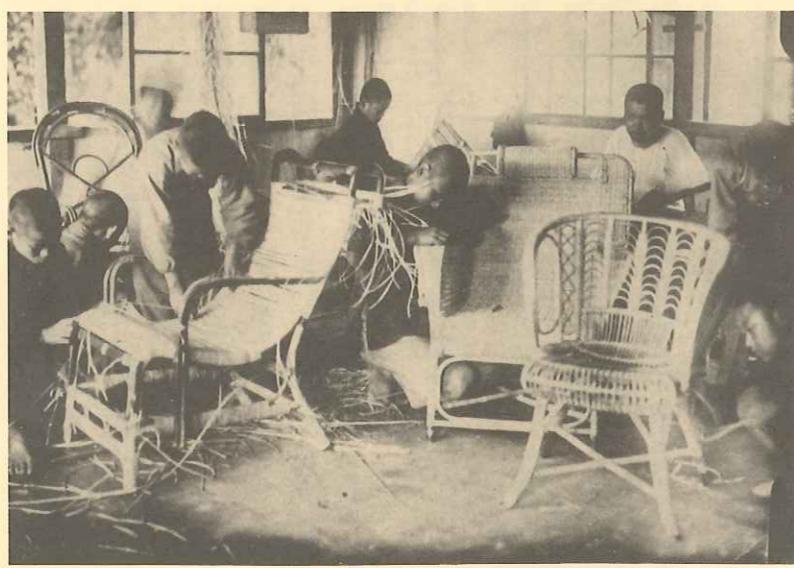
第3卷 子どもの養護III



遊戯する子どもたち
(同情園分園育児部・1930年)

修学園記要(第2回)

- 埼玉学園二閑スル規定・一九〇六・四
- 東京感化院沿革・高瀬真柳・一八九四
- 東京感化院統計表・一九〇七・一二
- 小塩塾初年記録・小塩高恒・一九三四・四
- 家庭学校四十年略史・編・今井新太郎・一九三九・二
- 修育学園記要第一回・小笠原修育學園・一九一六
- 神奈川県薦育院規程・一九〇三・五
- 財團法人幼年保護会要覽・編・有馬純彦・一九一八・六
- 神奈川県薦育院規則・一九〇三・五
- 富山県立樹徳学園要覽・富山成徳会・一九二九・二
- 静岡県立三保学院創立記念案内全明治四十五年二月
●一九二二・一
- 愛知学園概況・編・愛知県・一九一〇・五
- 財團法人三重感化院要覽昭和七年度未現在・一九三三・三
- 盜癖児の百五十日教育
●脇田良吉/序・井上友一・京都府教育会・一九二一・五
- 決戦下少年教護事業推進の具体的緊急方策
●浜陽学校・一九四三
- 感化院一件・編・大阪府・一九〇四
- 大阪府立修徳館一覧・一九一八・一〇
- 中等学生の抜け遊びに関する調査
●大阪府中等学校校外教護聯盟・一九三三・三
- 少年教護施設拡充計画案
●大阪府学務部社会課・一九三四・一二
- 財團法人武田塾要覽第三輯・一九三六・五
- 関西保母研究会議事録・兵庫県立土山学園・一九一九・四
- 岡山感化院設立趣意並規則・一八九〇・九
- 本県教護事業概況・在籍児童ノ概況(和歌山)
●仙溪学園・一九三九
- 島根県松江市財團法人山陰慈育家庭学院一班・一九一
- 教護基本調査(秘)・編・吳市教護聯合会・一九四〇・八
- 明治四十二年七月広島修養院要覽・一九〇九・七
- 山口県立育成学校記要・一九二一
- 徳島県立徳島学院概覽昭和二年六月現在・一九二七・六



成徳学院での手工実習(1923年)



下野三楽園園芸場(1926年)



朝鮮・群山修道社仮収容所の子どもたち(1918年)

第4~6巻 子どもの保護教育I~III(抄・予定)

- 児童保護教育の発展・北海道厅立大沼病院・一九一八・四
- 修養学園の参拝年(宮城県立修養学園創立三十周年記念)
●一九三九・一〇
- 福島県薦陶園一覧表大正五年十一月現在・一九一七・一〇
- 茨城県薦風塾教育状況報告・一九一九
- 栃木県立那須学園一覧大正六年十月現在・一九一七・一〇
- 不良児と其の環境・栃木県社会課・一九一八・七
- 群馬学院児童診査報告昭和十三年三月・一九三八・四



群山修道社教室での子どもたち(1922年)

北星園(北海道)一九一〇年
北星園要覽●一九一〇年

朝鮮総督府済生院事業要覽大正十四年●一九二五年・六

下野三楽園(茨城)一九二三年

大正十四年度園況報告第十三号

●財団法人下野三楽園●一九二六年・七

南加小兒園(米国カリフォルニア州)一九一四年

社団法人南加小兒園小誌●一九三九・五

子どもの 人権問題

編集復刻版

資料集成 戰前編



子どもの 人権問題

編集復刻版

資料集成 戰前編

学園要覽昭和十六年七月・大阪市立長谷川郊外学園・一九四一・七

要覧・大阪市立長谷川郊外学園・一九四一

光明学校紀要第四輯・一九三六・七

柏学園第十五年報・一九三六・七

私立学校紀要第六輯・一九三九・三

原作脚色・須藤鐘・日本感化教育会

更生の春(感化事業映画)

●佐藤範雄

講演要領 中等教育に於ける感化の実験(前編)

原作脚色・須藤鐘・日本感化教育会

最後の一人の生存権・牧野英・人道社・一九四一・二

武藏野学院月報第六号・一九二六・六

会報第三号・財団法人日本少年指導会・一九二六・一〇

武藏野学院の十年・菊池俊謙・一九二九・三

京城に於ける関西少年教護院々長協議会速記録第一六

回昭和一四年九月・関西教護職員協会・一九三九・二二

要教護少年の医学的考察

●杉田直樹・大阪府社会課・一九四一

全国要教護児童調査報告書・厚生省生活局・一九四三

第7巻 少年保護(抄・予定)

淡路島に於ける感化第弐回・横田作造・一九〇七

特殊教育ノ概況附退学者ノ保護事業二班

●福島監獄中村分監・一九〇八・五

不良青少年少女ニ対スル参考表

●大阪府警察部刑事課教護係・一九二六・六

事業報告百大正十二年至大正十四年三年間

●大阪少年審判所・一九二七・三

保護のしるべ・東京少年審判所・一九三一・三

浪速少年院要覧・一九三一・八

要保護少年小学校時代の生活状況調査

●大阪府教育関係少年保護司会・一九三三・一

名古屋少年審判所瀬戸少年院開所記念誌昭和九年五月

●一九三四・五

幼少年教化研究部設立趣意書(財団法人日本少年指導会の

業)附建議・一九三四・九

救世軍世光寮要覧・一九三五

少年保護婦人協会の事業に就いて・一九三五・二

築地本願寺東京真宗婦人会附属六華園要覧

●一九三六・五

保護少年の心理的特長

●松岡真太郎・朝日新聞社会事業団・一九三六・八

精神衛生上より觀たる少年保護(少年保護叢書第一輯)

●合貞信・財団法人日本少年保護協会・一九三六・九

財団法人日本少年保護協会要覧・一九三七・四

少年保護のしるべー子女の不良化をどうするか

●財団法人日本少年保護協会・一九三七・五

少年保護読本(少年保護叢書第四輯)

●財団法人日本少年保護協会・一九三八・四

少年保護記念日・日本少年保護協会奈良支部・一九三八・四

大都市就職希望少年職業紹介聯絡要綱

●東京地方職業紹介事務局・一九三一・二

百貨店ニ於ケル少年店員採用、教育方針其他調(秘)

●名古屋地方職業紹介事務局・一九三三・六

労働児童の保護(社会教育パンフレット第百九十三輯)

●沢尻太郎・財団法人社会教育協会・一九三四・三

児童虐待防止法ニ関スル法律制定ノ件

●茨城県学務部長・茨城県警察部長・一九三四・一

児童虐待防止法の話・編・児童擁護協会・一九三四・九

児童虐待防止法関係法令

●財団法人奈良県社会事業協会・一九三四・九

児童虐待防止法中疑義ノ件回答・社会部長・一九三六・九

歌はぬ子の話・高島巖・児童擁護協会・一九三八・二

感謝・報告子供の家・加藤三日男・一九四一・四

大都市就職希望少年職業紹介聯絡要綱

●東京地方職業紹介事務局・一九三一・二

百貨店ニ於ケル少年店員採用、教育方針其他調(秘)

●名古屋地方職業紹介事務局・一九三三・六

労働児童の保護(社会教育パンフレット第百九十三輯)

●沢尻太郎・財団法人社会教育協会・一九三四・三

児童虐待防止法ニ関スル資料(社会保護資料第四十二

号)・社会局労働部・一九三五・三

最近に於ける少年工(見習工)に関する職業紹介状況

●東京地方職業紹介事務局・一九三五・九

児童の見た職業・東京地方職業紹介事務局・一九三六・二

小学校卒業児童就職に関する資料・厚生省臨時軍事援護部

●一九三八・二

がんばれ、職業も戦場だ

●神戸国民職業指導所・一九四三・四

学校卒業者使用制限關係法規・厚生省労務局・一九四四・二

少年職業指導概要・神奈川県學務部社会課・一九三三・八

管内昭和六年度少年職業紹介事業成績

●大阪地方職業紹介事務局・一九三一・九

少年職業指導概要・神奈川県學務部社会課・一九三三・八

本県下ニ於ケル少年就職ノ状況

●岡山県社会課・一九三三・二

昭和四年三月卒業(退学)児童就業状況調

●社会局社会部・一九三〇・六

管内に於ける少年職業紹介事業の概況

●青森地方職業紹介事務局・一九三〇・一

本県下ニ於ケル少年就職ノ状況

●岡山県社会課・一九三三・二

光明学校紀要第六輯・一九三六・七

光明学校紀要第四輯・一九三六・三

柏学園第十五年報・一九三六・七

私立学校紀要第六輯・一九三六・七

不具児童の教育(社会教育パンフレット)一〇〇

●坂本泉・社会教育協会・一九三四

定款・長谷川記念愛児園・一九二八・一

白十字会林間学校復興記念・一九二五・一〇

第六回夏季林間児童保養所報告書・日本赤十字社・一九二六

石川県立盲学校規則・一九一四

私立福岡盲学校一覽大正八年度・一九一九

東京盲学校一覽・一九一八

私立福岡盲学校要覧大正六年十月調・一九一〇・八

婦人育児共立会の趣意・一九一〇・八

私立豊橋盲学校概況一覽・明治四十三年十月創立記念

●一九一〇・一

私立岩手盲学校樂善会報告書第一回・柴内魁・一九二二

学校沿革誌明治三十五年・御津尋常小学校・一九〇一

第二回横浜根岸学校盲啞部報告書・一九〇八・四

婦人育児共立会の趣意・一九一〇・八

私立函館盲啞院要覧大正六年十月調・一九一〇・八

夜間通学青少年労働者生活状態

●名古屋市社会課・一九三三

夕刊売少年の調査・岡山県社会課・一九五

少年職業に関する調査(社会教育パンフレット第二十輯)

●中央職業紹介事務局・社会教育協会・一九二六

卒業生就職斡旋に就て・神戸市中央職業紹介所

●一九二六・一〇

親隣のかげ第六号

少年職業指導と紹介・中央職業紹介事務局・一九二七・一

親隣のかげ第六号

少子家庭の調査・岡山県社会課・一九二七・一

少年の職業指導(社会教育パンフレット第四十四輯)・文部省普通

学務局・中央職業紹介事務局・財団法人社会教育協会・一九二七・二

少年職業指導要綱(社会教育パンフレット第五十七輯)

●遊佐敏彦・財団法人社会教育協会・一九二八・七

児童の希望職業に関する調査

●大阪地方職業紹介事務所・一九三〇・三

昭和四年三月卒業(退学)児童就業状況

●社会局社会部・一九三〇・六

管内に於ける少年職業紹介事業の概況

●岡山県社会課・一九三三・二

光明学校紀要第六輯・一九三六・七

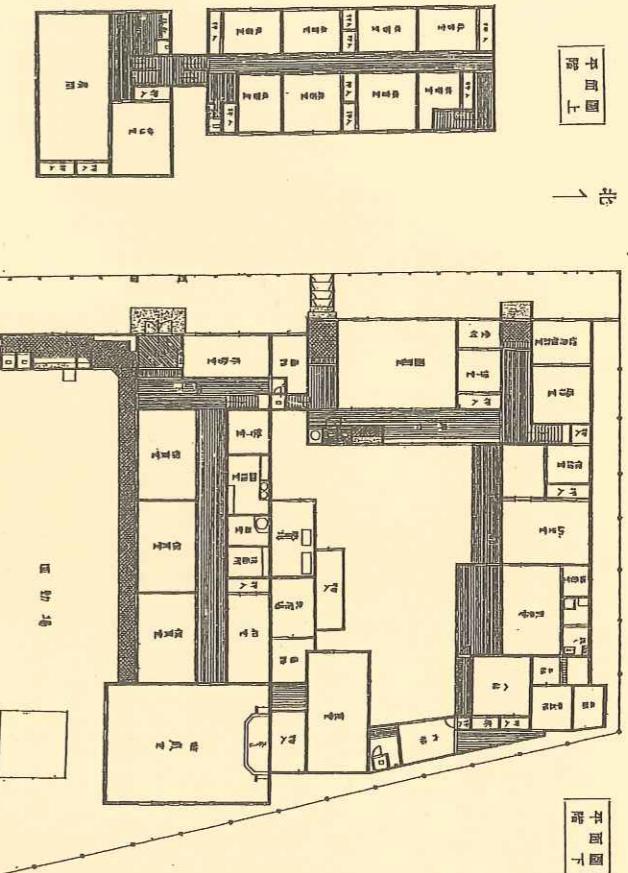
光明学校紀要第四輯・一九三六・三

柏学園第十五年報・一九三六・七

私立学校紀要第六輯・一九三六・七

要覧・大阪市立長谷川郊外学園・一九四一

学園要覽昭和十六年七月・大阪市立助松郊外学園・一九四一・七



2、育児部（家庭寮）

A 階上 収容室八、便所、洗面所
B 階下 兒童圖書室、應接室、乳幼兒健康相談室、小便室、待合室、病室、幼兒室二
堂、園長居室、

設立の趣意

天真爛漫、何の邪心もない天から與へられた子供達に、一は幼兒教育のあらゆる機關が供へられ、一は貧しさの爲生活に追はれて全然放任せられて居る狀態、又は扶養者もなき孤獨の子女、他日第二の國民として働く子供達にこんな懸隔のあることは童心を傷つけるもの甚しいと存じます。私共は何の要求もしない子供達の眞の理解者となり代辦者となつて、將來兒童樂園を目指し、一人の不遇者なきまでに一人の不心得者も出さない様に、朝夕神佛の守護に感謝の祈りをさせ、人類相愛の意味を徹底させ、兒童隣保の大理想を念願として歩を進め度いと存じて居ります。

然し何分にも兒童保護の事業は社會事業中での難事業で有りまして、到底私共の微力のみでは如何ともする事が出来ません、其の上財界の變調は可憐なる兒童の上にまで影響を與へ、斯業の前途は益々多事多難となつて参りました。希朢ば社會の子供達の爲に私共の仕事を御支援下さらん事を御願申上げます。

名広愛児園及家庭寮事業概要

一、位置	名古屋市中區車田町一丁目十一番地
一、事業ノ種類	(1)保育事業 (2)育児事業 (3)學童保護事業 (4)乳幼兒健康相談事業 (5)婦人教養事業
一、建物概況	
一、敷地面積	四百坪
一、建物坪數	二百四十七坪〇八
1、保育部	木造洋瓦葺二階建一部平家建 延坪一一〇坪四七
A 階上	大廣間、作法室、物置、便所
B 階下	事務室、保育室三、講堂、補助室、洗面所、湯殿、宿直室、炊事室

(1)

當地附近には兒童保護の社會事業施設皆無なりしため、中產以下の自ら子女を教養する餘裕に乏しき者多く特に託児事業の必要を認め、昭和四年五月千種元役場跡に開設致せし所、兒童數は日々に増加し、建物の狹隘を告げ、保育上非常の不便を感じると共に、建物の腐朽危険のため、茲に移転新築を計畫し、地元一般の篤志寄附金を基礎とし、之に恩賜財團慶福會並に財團法人衆善會よりの助成金の交付を受け、昭和九年三月新築落成と共に移轉せし處、漸次內容の充實を計り、ありしが、環境地の利を得たるや今日園児百四十名を数える盛況を告ぐ。一方新築移轉を契機として、保育上最も困難とする乳兒保育をも併置し、續いて扶養者なき孤獨の子女を方面委員より委託せらるゝに至り昭和九年四月より育児部を開設、此等乳幼兒健康相談所の必要を認め種々研究中の處、財團法人衆善會より新設助成金を受けたるを以て昭和九年十二月二十三日の皇太子殿下御誕生の佳辰をトして開所、然るに社會生活は愈々復興となり、上下の懸隔甚しくカード階級として救護せられる者日々に増加す、中には妻の病氣或は死亡等の爲手にて困る者、父親が生活苦のため罪を犯し刑務所に入り全く扶養者なきもの益々多く育児收容室の狹隘を感じ、財團法人三井報恩會財團法人衆善會、方面事業助成會、農田利三郎氏其他元一般の寄附を得て増築を計畫し、昭和十一年六月二十日着工同年十二月十四日竣工と共に名廣愛児園家庭寮と名稱を定め收容兒童を移し現在に至る。

(2)

(3)

子ども人権史の「拠点」を求めて

小倉襄一（おぐら・じょうじ）同志社大学名譽教授

人権をめぐる社会問題史という分野で子どもへの設定は極めて重要である。

私たちの現実には、子どもの貧困、格差、そして虐待、犯罪などが渦巻いている。いま、それへの対応、事態についてのメディア、識者の情報も多彩にわたっている。私の印象では、そのアプローチは状況の平板、表面的説明、対策への願望に終わるものほとんどである。一つの理由には、子どもの社会問題史の深みを論拠とする思考の枠組みの欠落があげられる。子どもをめぐる問題状況の歴史的展開の意味、その重複する遭遇の流れや時代状況の移り行きとの関が軽視されているのではないか。つねにこのレベルに問うということではないか。

我が国の児童保護事業が社会的規模で眼をひくものとなってきたのは、明治国家の近代化がひとつのピークをむかえた世紀転換期（1900年）を過ぎる頃のことである。明治期の日本社会はすでに幼年保護の分野で石井十次の岡山孤児院にみられるような先駆的な実績を持っていたが、明治三三（1900）年の感化法の制定をひとつの画期として、大正・昭和前期の日本は、少年保護・児童虐待等のさまざまの場面で児童・少年の保護・育成制度を発展させた。ここで児童福祉の展開史は、しばしば感化法、少年法、児童虐待防止法、少年教護法といった法定法の「峰」の文脈で、いわばその系として論じられる。しかし仔細に点検してみた場合、これらの法定制度はいずれも、法制度に先行して展開した地域の篤志家・寺院等の民間諸団体のエネルギーを基盤に

戦前期の児童・少年保護の全体像に迫る基礎文献の集成

森田 明（もりた・あきら）東洋大学法学部教授

しつつ形成されたという事実を見逃すことができない。峰の「裾野」ともいうべきこれらの非国家的な民間のイニシアティヴは、戦前期児童福祉の生命線であった。本資料集成はここでの「裾野」の重要性に焦点をあてて、各々の児童保護事業の実務的基礎文献を同時代史的に収集・編纂したものである。

児童保護・少年保護の問題は、究極のところは、その社会と共に共有される家族関係・親子関係の問題に帰着する。そしてここでの人間関係のありようは、保護事業運営の実務という具体的な場面でもっともシャープに把握されうるものである。かかる意味で本資料集成の公刊は、近代日本における児童・少年保護の生成・展開の全体像に迫ろうとする研究者を、今後大いに裨益するところとなるに違いない。



大阪汎愛扶植会全景（1935年）

戦前における「子どもの人権」をめぐる 多様な事業と実態の記録

山崎由可里

やまさき・ゆかり（和歌山大学教育学部教授）

『子どもの人権問題資料集成 戦前編』は、貧困・非行・虐待・障害・児童労働などにより人権を侵害された子どもたち、彼・彼女らへの社会的保護・育成に関する本格的な資料集成である。

現代の社会問題にもオーバーラップするテーマを扱ったこの資料集成の意義は、おおよそ以下の三点である。第一に、育児院・養育院・孤児院・感化院（少年教護院）・矯正院・障害児保護施設など、実に多様な施設（事業・学校）を網羅していることである。第二に、都市部、地方問わず、植民地だった台湾や朝鮮も含め、全国各地の施設が刊行した要覧、紀要、活動記録



おやつを食べる子どもたち
(同情園分園育児部・1930年)

既刊図書（復刻版）のご案内

知的・身体障害者問題資料集成 戦前編

《全一六巻》【編集復刻版】

戦前期、「障害者」は国家・宗教・共同体・家族の中でどのように認識され、振り分けられ、保護され、疎外され、放置され、そして生き抜いたか。学習障害児・知的発達障害児・肢体不自由児から傷痍軍人まで――知的・身体レベルの障害に関する、調査報告書・リーフレット・教育啓発文書・施設案内・公文書等、資料群三〇〇余点を復刻！

A4判／上製

総六,〇六四ページ

● 汎定価：本体四〇〇,〇〇〇円十税

● 解説：高橋淳子、平田勝政

● 推薦：清水寛、一番ヶ瀬康子、大見川正治、中村満紀男

東京孤児院月報《全二巻・別冊一・付録一》

一八九九年（一九〇〇年）

身寄りのない子どもたちをただ「収容」するのではなく、ひとりひとりの子どもの人権を中心とした「家庭」として子どもたちを受け入れ育てた東京孤児院＝東京育成園の機関誌。児童福祉・社会思想史研究に必須の資料！

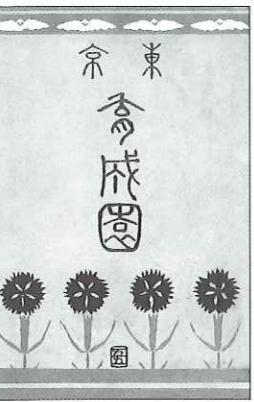
A4判・B5判・四六判／上製

総一,八四二ページ

● 汎定価：本体八〇,〇〇〇円十税

● 解説：丹野喜久子

● 推薦：吉田久一、仲村優一



東京市養育院月報《全二〇巻・別冊一》

一九〇一年（一九〇二年）

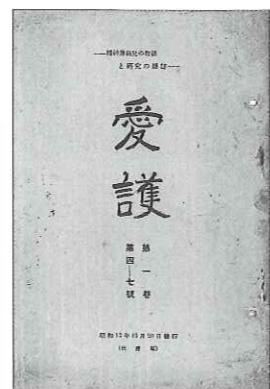
近代化のひずみによって首都東京で窮乏にあえぐ路上生活者や知的・身体・精神障害者、身寄りのない高齢者や子ども、ハンセン病患者らを引き受けってきた東京市養育院。その機関誌として、近代日本の最底辺層の人々の生きざまを証言する重要な資料！社会福祉史・社会政策史研究に必須の資料を復刻。

B5判・A5判／上製／総約一四,〇〇〇ページ

● 汎定価：本体六〇,〇〇〇円十税

● 解説：蒲生俊宏

● 推薦：津曲裕次、北沢清司



東京孤児院月報《全二巻・別冊一・付録一》

一九〇一年（一九〇二年）

身寄りのない子どもたちをただ「収容」するのではなく、ひとりひとりの子どもの人権を中心とした「家庭」として子どもたちを受け入れ育てた東京孤児院＝東京育成園の機関誌。児童福祉・社会思想史研究に必須の資料！

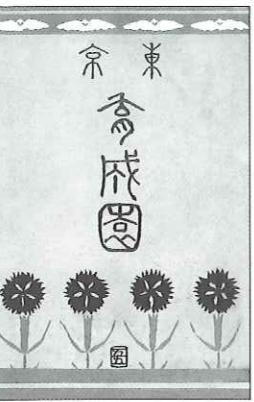
A4判・B5判・四六判／上製

総一,八四二ページ

● 汎定価：本体八〇,〇〇〇円十税

● 解説：丹野喜久子

● 推薦：吉田久一、仲村優一



体操する成徳学院の生徒たち
(1923年)

が幅広く収集されていることである。そして第三に、従来の復刻版では看過されてきた、児童労働や職業指導に関する実態調査や概況報告が含まれていることである。ほかにも施設の刊行物の中には日課や年間行事、入所児童の作文などを掲載しているものもあり、保護事業が果たした学校教育の代位的な側面も看取される。その意味で、

『子どもの人権問題資料集成 戦前編』は、社会福祉・児童福祉分野はもちろんのこと、教育学分野の研究者、実践家にも読してほしい証言する貴重資料！

い絶好の資料である。

が幅広く収集されていることである。そして第三に、従来の復刻版では看過されてきた、児童労働や職業指導に関する実態調査や概況報告が含まれていることである。ほかにも施設の刊行物の中には日課や年間行事、入所児童の作文などを掲載しているものもあり、保護事業が果たした学校教育の代位的な側面も看取される。その意味で、

『子どもの人権問題資料集成 戦前編』は、社会福祉・児童福祉分野はもちろんのこと、教育学分野の研究者、実践家にも読してほしい証言する貴重資料！

い絶好の資料である。

子どもの 人権問題

資料集成

全10巻

戦前編

編・解説担当

A4判／上製／総約三、五〇〇ページ

● 摂定価＝本体一十五万円+税

100九年度配本分一十五万円+税

1010年度配本分一十万円+税

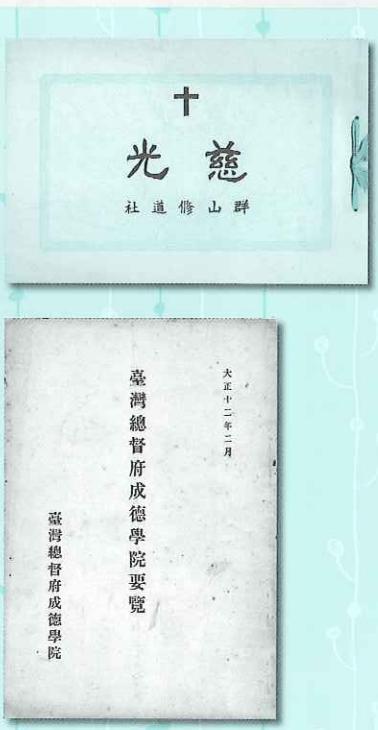


朝鮮・群山修道社の仮収容所に身を寄せた子どもたち(1918年)

第3回配本		第2回配本		第1回配本	
第10巻	子どもと貧困／労働	第7巻	少年保護	第4巻	子どもの養護Ⅰ
2010年6月 ● 定価＝本体100,000円+税	貧困家庭に育つ子どもの教育と労働について夜学校、少年労働規制などの資料を収録	2009年12月 ● 定価＝本体75,000円+税	非行・犯罪にかかる子どもの対する少年保護団体・矯正院・少年審判所などに関する資料を収録	2009年6月 ● 定価＝本体75,000円+税	養育者のいない子どものための孤児院や育児院などに関する資料を収録
第9巻	子どもと虐待	第8巻	第5巻	第3巻	子どもの養護Ⅲ
2010年度10万円+税	病弱な子ども、障害をもつ子どもに関する資料を収録	2009年度15万円+税	反社会的行動をとるなどみなされた子どものための感化院・少年教護院などに関する資料を中心収録	2009年6月 ● 定価＝本体75,000円+税	2009年6月 ● 定価＝本体75,000円+税
第10巻	子どもと貧困／労働	第7巻	少年保護	第4巻	子どもの保護教育Ⅰ

- 推薦 相澤仁(国立武藏野学院院長) 小倉襄一(同志社大学名誉教授) 山崎由可里(和歌山大学教授) 倉持史朗(天理大学専任講師) 宇都榮子(専修大学教授) 森田明(東洋大学教授) 蜂谷俊隆(名古屋市医療技術専門学校講師)

- 「子どもの養護」室田保夫・蜂谷俊隆
「子どもの保護教育」一井仁美・倉持史朗
「少年保護」二井仁美・倉持史朗
「子ども虐待」室田保夫・一井仁美
「子どもと健康／障害」室田保夫・蜂谷俊隆
「子どもと貧困／労働」室田保夫・蜂谷俊隆



● 表示価格はすべて税別。

不出版

T-1-13-0-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
振替00160-2-94084
ファクシミリ03-3812-4464